

発達障害児の集団療育に関する研究

分担研究：発達的な観点からみた療育指導のあり方に関する研究

協力研究者：小西薫¹、

共同研究者：奥河かおり¹、星山伸夫²

要約：我々は、療育を進めていくにあたって検討していくべき具体的な課題のひとつとして、QOLの向上をめざす療育という視点から、療育法の在り方の見直しを行なう。本来、子ども達は子ども集団のなかで成長するということを考える時、療育の在り方の中で、「集団」の意義等を検討する事は、重要であると考え。今回の研究では、「集団」の特性を活かしたプログラムを実践している「集団療育」の実際と効果等を検討した。今後、アンケートを実施し、国内の療育機関における「集団療育」の実態調査を行なう予定である。また「集団療育」に関する文献的考察も加えて、今後の療育法の在り方を示す予定である。

見出し語：集団療育 個別機能訓練 療育目標 発達障害児

緒言：子ども達は、子ども集団の中で、時には大人の援助を受けながら、より意欲的に活動し、その力を充実させ成長する。発達障害児の場合も、基本的には、同様の過程を経て成長する。このことをふまえて、障害児の療育を考える必要がある。現在種々の発達障害に対して、個別に運動機能訓練や感覚機能訓、言語訓練などを行なうことの必要性が強調され、実践されている。しかし、子ども達の成長の過程で大切な場である「集団」に関して、療育の中でその意義や、方法、効果等について明確にされているとは言い難い。従って、今回は、「集団」の特性を活かしたプログラムを実践している自閉症児に対する集団療育教室の実際と効果等を通して、幼児期の療育の中で「集団」の持つ意味を検討する。

研究目的：

自閉症児に対するいわゆる「集団療育」の報告はいくつかあるが、単に「集団」で療育を行なっているだけの事が多く、集団の持つ特性を積極的に活かそうとするものは少ないように思われる。そこで我々は「共同作業的運動遊び」を中心とした「集団療育」を行ない、行動観察を通してその対人関係変化について検討したので報告する。

研究方法：

1984年から1995年までに、福井総合病院小児科を訪れ、幼児集団療育教室「どんぐり教室」にて療育を受けた自閉症児76名(2～6才)を対象とした。これらの児は全て2年

以上療育を受け、行動観察によって、対人関係の変化を詳細に検討することができた。対人関係の変化を以下の4段階に分けた。

- ①集団に対して無関心あるいは拒絶
- ②集団の存在に気付く
- ③集団に入らないが、集団と同じような行動をとろうとする
- ④自ら集団に参加する

結果：

ほぼ全ての症例が①から④の順序で変化し、1年間で③の段階に到達した。③から④への変化は症例によってバラツキがあるが、61名(80.3%)が年以内に④の段階に到達した。

考察：

今まで行なわれている「集団療育」は集団とはいっても単に個人指導を大勢で行なうだけであり、本当に「集団療育」とは言えない。集団療育とは共通の目的を持った活動を集団で行なうことに意味がある。その為には子どもの興味を引きやすく、楽しく、共同して使いやすい物を選ぶことが大切である。、共同作業として例えば長い棒をみんなで持って一斉にゴールに練、向かって走ることなど、「引き込み」が起こりやすい活動を選ぶ事も重要である。またいわゆる「のり」の良い、楽しい活動として一緒に太鼓を叩くなどのリズム遊びも有効であると思わした。子どもに対する直接的な働きかけは強いストレスとなり、過敏性や防衛反応を強める場合があるが、共同活動では、集団でのリズム・動きへの同期を目的とするため、強いストレスとなりにくい。集団の流れにのり活動し

ているうちに、そこに「ひと」がいることに気付き、自閉的傾向が改善していく。「集団療育」はコミュニケーション障害を改善し、適応能力の向上に有効であると考えられる。こうした療育の経験は、正常集団のなかでともに生活をする事を、円滑にする。そして、療育機関での実践は、先行経験として、正常集団での保育の在り方の参考になると思われる。又、こうした「集団療育」の中から親たちの交流も始まり、親の会の活動が生まれる等の波及効果も生まれる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:我々は、療育を進めていくにあたって検討していくべき具体的な課題のひとつとして、QOLの向上をめざす療育という視点から、療育法の在り方の見直しを行なう。本来、子ども達は子ども集団のなかで成長するということを考える時、療育の在り方の中で、「集団」の意義等を検討する事は、重要であると考え。今回の研究では、「集団」の特性を活かしたプログラムを実践している「集団療育」の実際と効果等を検討した。今後、アンケートを実施し、国内の療育機関における「集団療育」の実態調査を行なう予定である。また「集団療育」に関する文献的考察も加えて、今後の療育法の在り方を示す予定である。